



中国地方観光情報 第十弾

岡山県編②

いよいよ夏到来、晴れの国岡山は美作国建国1300年記念事業で活気づいています。岡山県は、観光資源が豊富で、歴史、自然、グルメと自分流の旅を組み立てることができます。そこで今回は、旅の幅を広げていただこうと、主要な観光スポットのあまり知られていない面をお伝えし、この夏、岡山県を是非楽しんで頂きたいと考えています

古代から江戸前期まで

その昔、現在の岡山県全域、広島県東部と鳥取・兵庫県を含む地域は、「吉備の国」とよばれていました。吉備の国は、大和政権や筑紫（北九州）、出雲（島根県東部）とならぶ強大な国だったと言われています。吉備氏をはじめとする豪族達は、製鉄と製塩で力をつけ、日本全国と取引をしていました。4〜5世紀には、豪族達の墓である大古墳が造られ、造山古墳など数多くの古墳が今も残っています。これらの古墳が、畿内と九州、出雲を結ぶ山陽道と出雲街道沿いにあることから、往来する他国の人々に力を誇示するため作られたのではないかと、推測されています。岡山での古墳巡りを意外に感じる方もいるかもしれませんが、かつての繁栄に想像力を働かせながら街道を歩くことで、日本の歴史の新しい発見があるかもしれません。

岡山県といえば桃太郎。吉備津神社は、桃太郎のモデルとされる吉備津彦命を祀っています。諸説ありますが、百済から飛来した温羅を吉備津彦命が討ったというのが桃太郎伝説の始まりで、温羅の首が埋められたといわれる御釜殿では神官と阿曾女によって鳴釜神事が行われます。入母屋造の屋根を二つつなげた本殿と約400坪の長い回廊は他の神社にはみられません。また、岡山県初の首相、犬養毅の銅像もあります。

備前市にある特別史跡旧閑谷学校は1668年藩主池田光政が民間子弟の初等教育のため開設した学校です。孔子を祖とする儒学教育に則り、学科では漢学や習字、算術を教えています。その伝統は今も引き継がれ、一般者向けに「日曜論語」の勉強会が行われています。また昭和40年には、「岡山県青少年教育センター閑谷学校」が創立され、現在も小中学生・高校生の宿泊研修や、子ども会、大学の部活動、企業研修など学びの場として活用されています。

後樂園は、水戸の借樂園、金沢の兼六園とともに日本三名園に数えられる名園の一つです。2代藩主池田綱政が安らぎを求めて作った庭園で、四季の花を愛でながら約1時間半

ほどの散策路には、木曾路を模したといわれる花交の森と花交の池、茶摘みが見られる茶畑、今が旬の花菖蒲畑や、お田植え祭の井田など趣向が凝らされています。7月下旬から8月中旬の園内ライトアップ時に映える岡山城のたたずまいも美しいです。

江戸時代の発展と現在

「日本のエーゲ海」とよばれる牛窓の海は、参勤交代で江戸へ往来する大名達の風待ち・潮待ち港として発展しました。多くの商船も寄港し牛窓千軒と呼ばれるほど繁栄していました。また、鎖国時代にも国交を結んでいた朝鮮からの通信使が寄港する港でもありました。通信使は朝鮮国王が徳川将軍に派遣した友好使節団であり、来日二回の内、9回牛窓に上陸しています。しおまち唐琴通りは、当時の町割を残し、本蓮寺は通信使の宿舎となつたということで、今でも通信使が書いた文書が残されています。海遊文化館では、通信使が描いた絵画や贈り物の燭台、通信使から影響を受けて作った日本各地の人形などが展示され、朝鮮との深い関わりを学ぶことができます。前島は、江戸時代の大坂城再建時に、石垣用の石を採った地です。石切や搬送の場面に立ち会った通信使の驚いた様子も記録されています。

倉敷は、江戸時代に幕府直轄の天領として栄えました。米をはじめとした物資の集散地として蔵や屋敷が建ち並び、その町並みが今も残されています。倉敷川沿いの白壁の建物が続く一帯は倉敷美観地区として保存され、昭和5年に開館した大原美術館は、日本で初めて西洋美術を展示した美術館でもあります。ギリシャ神殿風の建物内にはエル・グレコの受胎告知やモネの睡蓮などの世界的な名画が収蔵されています。

児島地区は江戸時代に干拓地で綿花を栽培していたことから、伝統的に繊維産業が盛んな地域です。国産ジーンズ製造の発祥地でもあり、全国からジーンズマニアが工場見学に訪れるほど。

鳥取県との県境にある蒜山高原は、今、新緑に萌える季節です。千石級の山が並ぶ蒜山三山の軽登山、乗馬、ジャージー牛とのふれあいや、おいしい乳製品など、家族での憩いにお勧めのエリアです。

岡山県大阪事務所

大阪市中央区備後町3の2の13

IN Yビル4階

06・6261・3206



掲載の記事・写真・イラスト等の全てのコンテンツ無断複写、転載を禁じます。

(株) ファッションビジネス・御堂筋新聞